

災害への備え、被災時の地域協力を考える内郷の会

あんしん内郷

第 7 号 (2024 年 10 月)

発行: 内郷地区社会福祉協議会

Tel/Fax: 043-486-5690

e メール: uts@catv296.ne.jp

Instagram: uchigou_bousai



あんしん内郷
Instagram

災害時の通電火災を防げ！

こんにちはトイプードルの



レオです。

自由な



猫の麦です。

「災害被害で一番嫌なのはなんだろう？」



う～ん、やっぱり火災だね。みんな燃えちゃうし、周りにも迷惑かけちゃうし。」

「あっ！麦ちゃん どこに行ってたの？それに何それ？」



「ネズミだよ。」



「ネズミ！」



「こいつ、屋根裏の電気コードをイタズラしようとしてたんだ。」



「それで捕まえたの？」



「かじられた電気コードが原因で、漏電火災になることもあるからね。」



「電気コードって、電気だよ。それで火災になることがあるの？」



「あるよ！漏電だけではなく、電気が原因の火災は近年すごく多いんだ。今年の正月に能登地方を襲った大地震。輪島市で発生した大火災も電気によるものだと言われているんだ。」

そして最近特に注目され対策に関心が集まっているのが、地震や大型台風などで停電した後に起こる**通電火災**なんだ。」



「麦ちゃん 通電火災って何？」



「停電から電気が復旧した時に発生する火災のことだよ。特に電気ストーブや照明の電源が入ったまま停電になり、スイッチを切り忘れた状態だとその後再通電した時に、近くの可燃物に火がついて火災になることがあるんだよ。」



「麦ちゃん、停電ってすごく短いものもあるけど、その時も危険なのかなあ？」



「短かそうな場合は様子を見るけど。長時間の停電が発生した場合、特に家を離れる時は電源 OFF にしてコンセントも抜いて出ること。災害が発生して避難する時は、身の安全を確保してブレーカーを切ることが大事だよ。」



「そうすれば通電火災は防げるの？」

「いや。それだけではダメなんだ。停電が復旧したら、まず電気コードに異常がないことを確認して欲しい。地震の揺れで家具が倒れ、電気コードが傷ついていることもあるからね。損傷した電気コードに通電すると、発熱し発火する場合もある。電源を入れる前には、燃えやすい物が近くにならないことも確認して欲しいね。問題がなければ、様子を見ながら使用してみる。台風の大雨で家電が水に濡れた場合には、使用しないで専門家に見てもらおうことも大事なんだ。」

「なるほどね。電気が復旧しても慌てて電気を通さないようにすることが大事なんだね。」

あっ！でも麦ちゃん、旅行などで留守の間に大地震が起きたらどうしよう？ブレーカーを切る人がいなければ、通電火災でお出かけ中にお家が火事になっちゃうよ。」

「そうなんだ。旅行などで家を空ける時、家電のコンセントは抜いてもブレーカーは切らないよね。」

そこで今回ご紹介する防災対策便利グッズ。それは**感震ブレーカー**。

震度5程度の揺れから感知して、家のブレーカーを切ってくれる優れもの。これを取り付ければ安心して旅行に行けるよね。感震ブレーカーは取り付け簡単な簡易型から、専門の電気屋さんに取り付けてもらうものまであるから注意して欲しい。」

「すごい麦ちゃん！ブレーカーの番人みたいだよ。そんなことまで知っているんだね。」

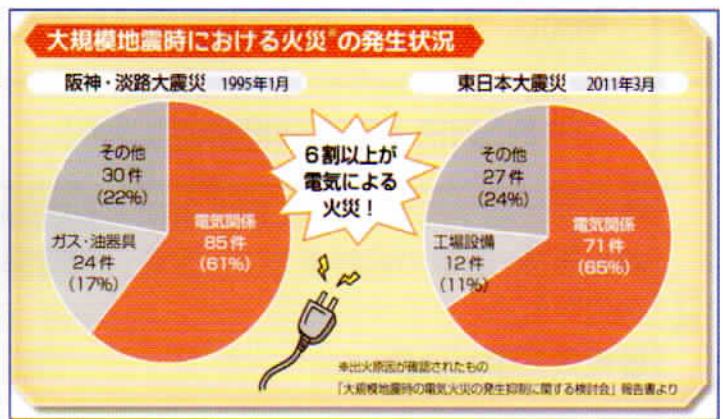
「電気火災を未然に防ぐ防災対策グッズは、近年色々出ているよ。電気コードを損傷させる原因の家具の転倒を防ぐグッズは次回紹介するね。」

災害に負けない強いまちづくりのためには、自分で出来る小さな備えで被害を防ごう。普段から自分自身の“防災アンテナ”を立てて、家族や友人にも小さな備えを広めて行くこと。これも大事な防災活動だよ。」

「そうだね、麦ちゃん。僕も地震とか停電になるとすごく不安になっちゃうけど、防災グッズがあれば少しは安心できるね。」

「捨て猫だった俺だけど、この家は大好きさ。だから電気火災を防ぐためにやれることはやる。ま、イタズラするネズミを捕ることぐらいだけだね。レオも、家の中のことに頼んだよ。」

「はい！」



裏面に感震ブレーカーのタイプ別一覧があります